

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <http://www.library.city.kawasaki.jp/>



二ヶ領用水竣工400年

川崎の貴重な史跡「二ヶ領用水」が来年2011年3月に竣工から400年の節目を迎えます。この機会に二ヶ領用水についてあらためて調べ、知識を深め、身近に感じてみませんか。



図書館で読める「二ヶ領用水」

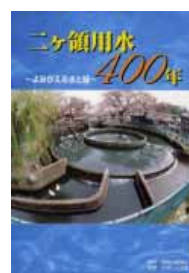


歴史的にもまた自然としても貴重な川崎の財産である二ヶ領用水について、図書館では色々な資料を手にとって見て、調べることができます。また、地域史に限らず様々なジャンルの事がらについて、調べ物にはぜひ図書館を活用してください。



『二ヶ領用水400年』－よみがえる水と緑－【神奈川新聞社】

開削の工事にまつわる史実から、かつての流域の村の様子まで二ヶ領用水に関する多くの記事が集められています。多方面から二ヶ領用水に関する知識が得られ、同時に読み物としても楽しめます。



『二ヶ領用水知絵図』【川崎市建設局土木建設部河川課】

地図のような形態の資料ですが、江戸時代後期から明治初期にかけての水路図、水流のシステム図などが見やすく載っています。用水の工夫されたシステムを見ると、当時の技術の高さがうかがえます。また「平成の見どころ・居どころ・歩きどころ」として見どころマップも載っています。現在、新たな改訂版も編集集中です。



図書館ホームページにも二ヶ領用水の「道しるべ」

図書館ホームページの地域資料コーナー「わが街・かわさき」に、二ヶ領用水の「パスファインダー」を掲載しています。「パスファインダー」という聞きなれない言葉ですが、あるテーマを調べるためのツール（資料）を紹介した手引きのようなもので、「道しるべ」もしくは「案内役」といったところです。ぜひご覧ください！

http://www.library.kawasaki.jp/local_pathfinder02.html

「二ヶ領用水竣工400年プロジェクト」が始まっています！

多くの市民グループと行政の協働で、竣工400年の記念プロジェクトが進んでいます

すでに4回の「二ヶ領用水散策こみち」が開催され、延二百数十人が参加。また、「二ヶ領用水知絵図改訂」「散策マップ作成」「教材用DVD制作」「プロジェクトinたかつ」「川崎堀＝七堰検証」など五つの分科会が活動中。『神奈川新聞』川崎版には、市民グループ執筆の「川崎を育んだ水」が連載中です。1月以降も、思い出の用水写真展、文化講演会、歴史講座、円筒分水サミット、400年シンポジウムなど、事業がめじろ押しです。

(二ヶ領用水竣工400年プロジェクト代表・長島保)

プロジェクトの詳しい内容や最新情報は、ホームページからご覧になれます！

<http://www.seseragikan.com/400th/toppage01.html> (二ヶ領ネットワークのホームページ)



2010年1月より新車で運行しています。

こんにちは！ 4代目「たちばな号」です

自動車文庫「たちばな号」が新車になりました。川崎市立図書館のキャラクター「つばきちゃん」と「つばきくん」の夢のあるイラストが描かれた車体に本を載せて、市内20箇所を巡回します。どうぞご利用ください。

図書館ホームページからも各ポイントの地図・運行スケジュールが調べられます♪
http://www.library.city.kawasaki.jp/riyou_mooving/movingmap.html

読書のまち 読書の秋 イベントReport!2009

かわさき読書週間（10月26日～11月8日）を中心に、秋は本と読書に関するイベントが多く開催されました。その一部をレポートします！

「かわさき読書の日のつどい」

かわさき読書週間のメインイベントとして、11月1日（日）中原市民館にて「かわさき読書の日のつどい」が開催されました。日本画家であり絵本作家でもある小林豊先生を招いた講演では、小学生たちの質問に小林豊先生が答えるコーナーや、絵本の感想を伝える場面もあり、子どもたちとの楽しい交流のひとつがありました。



「ブックランドTODOROKI」

10月25日（日）、川崎フロンターレと川崎市立図書館の合同企画「川崎フロンターレと本を読もう！」のイベント「ブックランドTODOROKI」が等々力緑地で開催されました。本のリサイクルや自動車文庫の展示などを行いました。曇りであり冷え込んだ天候にもかかわらず多くの方にご来場いただき、活気あふれるイベントになりました。

← 新車になる前の3代目「たちばな号」が展示されました。

「なかはら子どもとしゃかん本の森」

10月31日（土）から11月3日（祝）までの4日間、旧中原市民館ギャラリーにて「なかはら子どもとしゃかん本の森」が開催されました。ボランティアグループの活動紹介パネルや図書館おすすめ本の展示のほか、工作コーナーやおはなし会、リサイクル本の無料配布なども行なわれ、4日間で300人もの方々の来場がありました。

昭和の川崎を振り返って…

さる12月2日（水）、地域史研究家の小林孝雄先生をお招きして「読書のまち・かわさき」図書館講演会を開催いたしました。「かわさきの昭和史」と題し、ご自身の経験と長年の地域史研究にまつわるお話をうかがいました。昭和の時代と川崎の移り変わりをを感じる内容でした。



お知らせとお願い

ICタグの貼付作業を始めています

川崎市立図書館では、平成24年度に予定されている新中原図書館の開館にあわせ、全資料へのICタグの貼付を開始いたしました。ICタグの導入により、蔵書のより適正な管理と、利用者の皆様への効率的なサービスの提供を目的としています。蔵書点検や施設改修のための休館期間などを利用しながら進め、平成24年度までに全館の資料への貼付を完了させる予定です。

ICタグを貼付した資料は、他の自治体や大学等の図書館、その他民間の小売店・レンタル店等で使用されている資料や商品の持ち出し防止用のゲートを反応させてしまう可能性があります。

利用者の皆様には、他の図書館等への資料の持ち込みの際にゲートが反応する可能性がある点についてご注意いただくとともに、そのような場合には川崎市立図書館の資料を持っている旨をお伝えいただくようお願いいたします。

ご理解とご協力をお願いいたします

フロンターレ選手が選ぶ「わたしの1冊」

わが川崎のサッカーJ！チーム「川崎フロンターレ」と図書館との合同企画です。第2回目は、寺田周平選手が選ぶ1冊を紹介します。



『ワイルド・ソウル』 垣根涼介／著 【幻冬舎】

《あらすじ》 戦後の無計画な移民政策により、悲惨な人生を送ってきた青年が、日本政府への復讐をすべく南米からやってくる。ブラジル育ちの青年が引き起こす復讐は、社会を巻き込み大事件に発展していく。

*** 寺田周平選手より ***

無責任な移民政策で南米に移民した男の復讐劇ですが、骨太で読み応えがあります。エイジ(川島選手)にも薦めたところ、彼もすっかりハマってしまい、それ以来垣根さんの本を読むようになりました。読書はストーリーの面白さもそうですが、想像力を掻き立てられるので、気分転換に丁度いいです。

【DF13 寺田周平選手】

高さや巧さを兼ね備えた頼れるフロンターレの最古参ディフェンダー。穏やかで落ち着いた性格はチームメイトからの信頼も厚く、寺田選手の勧めた本がチーム内で流行ることもしばしばあるそう。山崎豊子の長編小説など重厚なテーマの小説もじっくり腰を据えて読むが、その一方で漫画の「ゴルゴ13」を愛読しているとのこと。

川崎フロンターレホームページ <http://www.frontale.co.jp/>



図書館ホームページにも新コーナー！

「川崎フロンターレと本を読もう！」 http://www.library.city.kawasaki.jp/menu_frontale.html
図書館ホームページにも、「川崎フロンターレと本を読もう！」のコーナーが登場しました。フロンターレ選手おすすめ本のリストや合同企画のイベント情報などを掲載しています！

かわさき歴史めぐり (20)

徳川氏の関東入国と川崎市域－20－

法政大学名誉教授
村上 直

本稿の(17) [平成21年2月1日発行]の一部に訂正がありますので、それについて今回は記したいと思います。文中で中原区の標高については「小杉青物市場（現在の川崎市公文書館付近）で7.8米、宮内で10.6米」と記しましたが、小杉青物市場は、川崎市公文書館付近とは別の位置にあった市場なので訂正します。

川崎市公文書館用地に係る資料によりますと、地域の卸売市場は戦前から市内各地に、青果や魚介類の市場がありました。しかし、民営であり、規模も小さく施設も十分でないため、市民の生鮮食料品の確保には不便を感じていました。昭和8年当時の「小杉青物市場」はこの頃のものと思われます。そのため昭和19年（1944）には市営の総合市場の建設による業務を始めましたが、翌20年の4月15日の戦災によって大半は焼失してしまい、戦後は木造の仮施設で再開しました。

府中県道沿いには、昭和11年に「中原食品市場株式会社」（現在、中原区小杉町3-1、中原ブックランド付近、中原警察署前）が設立されていたといわれていますから（大野省吾氏所蔵の写真）小杉青物市場が関係していたのではないかとも思われま

すが、明確ではありません。

川崎市の公設市場は、昭和19年、青果物・水産物を取扱う市営卸売市場として開設（幸区南幸町）したことに始まります。そして、戦後、昭和29年から老朽化した施設を整備拡張しながら中原・高津地区にも市場の開設を決定し、市内に分散していた民営市場を統合し、本場（現在の「南部市場」）の他、青果物を取り扱う中原分場（丸子通1-66）・高津分場（溝口234）の三市場で業務を始めました。そして、昭和35年5月には中原分場は宮内730番地（4887.81平方メートル）、翌36年7月には高津分場が溝口1,016番地（6806.62平方メートル）の市有地へ新設移転することになりました。中原・高津分場はいずれも青果物を取り扱う市場でした。この二分場は昭和57年7月1日に、宮前区に大型市場の「北部市場」が業務を始めたとき移転廃止となり、その他の民営市場も吸収されることになりました。この中原分場の跡地に昭和59年10月、総合的な情報公開を進める施設として、川崎市公文書館が設置されたのです。したがって、先の「小杉青物市場」と「川崎市公文書館」（現在、中原区宮内4-1-1）の所在地とは関係がありません。



昭和11年当時の「中原食品市場株式会社」の様子【大野省吾氏所蔵の写真より】

編集・発行 川崎市立中原図書館 〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417 TEL044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011)	高津図書館(822-2413)	麻生図書館(951-1305)	大師分館(266-3550)	橋分館(788-1531)
幸図書館(541-3915)	宮前図書館(888-3918)		田島分館(333-9120)	柿生分館(986-6470)
中原図書館(722-4932)	多摩図書館(935-3400)		日吉分館(587-1491)	管覧所(946-3271)